



研究部HP版

第 14 版 教育研究部 令和3年3月発行

(文責:細井)

～ 問題行動に、どう対処するか ～

1 はじめに

私が、応用行動分析を用いて、問題行動にどのように対処していくかについての講義に参加し、そこで学んできたことについてこれから述べていきたいと思います。とはいっても、私自身が学んできたことすべてを日々使いこなせてはいませんし、また高い専門性が必要なこともあります。そのため、より詳しく学びたい場合は、講義等を受けられることをお勧めします。したがって、今回述べさせていただくことは、私が講義に参加以降、意識していることや実際に取り組んでいることについてとなります。

2 データ

「何でその問題行動が起きているのか、目的を見つけることが一番大事である。そのためにはデータが必要である。問題行動の対応はデータに始まりデータに終わる。」これが講義に参加して最初に言われた言葉です。

応用行動分析は、「人間行動の科学研究」、すなわち「科学」であるためデータを取って証明していきます。データの取り方については後述しますが、データを取ることで、問題行動のいろいろなことがわかってきます。そして、このデータを取るときに大事なことは、「思考や考えも『行動』としてみる」であり、内面と表面を切り離してみることです。発話やコミュニケーション行為を含め、表面に表れた行動のみを見ていきます。見えない内面のことは考えないので、応用行動分析の視点でのデータには、「母と離れて寂しいから」「フラッシュバックをしているから」などの内面を推測して書くようなことはありません。データを取りながら、環境と行動の関連性をみていきます。

3 機能的アセスメント～データを取る

問題行動の目的を探し出すために詳細に行動を記述し、データを取ることを「機能的アセスメント (Functional Behavior Assessment)」といいます。この機能的アセスメント＝データを取る方法はいくつかありますが、ネット上などでもよく見ることができるもので「A・B・C記述フォーム」というものがあります。「ABC分析シート」「行動分析シート」など名称や形式に多少の違いはありますが、どれもデータを取るためのもので、ネットで検索するといろいろと見ることのできるものです。

〈 A・B・C記述フォーム 〉

A 先行条件	B 行動	C 結果事象	可能性のある機能

「A 先行条件」には、行動の直前に起こった出来事やきっかけなどの状況下について記載します。「出された指示や言葉かけ」「ある人、物、活動の存在」「環境や場面の变化」「環境の構造」などを記載することになります。先に書きましたが「フラッシュバック」は、先行条件にはなりません。

「C 結果事象」には、行動の直後に起こったことを記載します。



〈 A・B・C記述フォーム 記入例 〉

A 先行条件	B 行動	C 結果事象	可能性のある機能
生徒は教室で掃除機をかけていた	叫ぶ 先生を平手で3回たたく そして2回噛もうとする ※この欄は簡単に書いてもよい。また、回数や頻度なども書かなくてもよい。	噛もうとする行動を阻止し、トークンボードを見せ、タブレット端末のカードを指差しすることで、何のために頑張っているのか生徒に思い出させた 身振りプロンプトで掃除機を再びかけるように促した	

※「トークンボード」については、「第8版」をご参照ください。

※「身振りプロンプト」については、「第2版」をご参照ください。

その後、生徒は掃除を再開し、終了後トークンを先生に渡し、タブレット端末を受け取り動画を鑑賞しました。

4 『可能性のある機能』を考える

〈 A・B・C記述フォーム 記入例 〉での問題行動は、「先生をたたく、噛もうとする」ですが、この行動の「可能性のある機能」を考えます。その際、考えるべき機能は、第12・13版で紹介した以下の3つになります。

- 1 強化子の獲得
 - ①注目・反応（注意喚起）
 - ②具体物・活動
 - ③感覚
- 2 回避（逃避）
- 3 誘発



記入例の生徒は、トークンボードを見ることで掃除機がけを再開することができました。しかし、たたく・噛むの問題行動が続いていれば掃除機がけをしないで済むことから、記入例の「可能性のある機能」は、「回避（逃避）」ではないかと考えられます。

また、行動は複数の機能によって維持されている場合もあります。例えば、授業中に生徒が教室

を飛び出す。すると先生が追いかけていく、ということがあったとします。この「飛び出す」という行動には、授業を「回避」する機能と先生が追いかけてきてくれるという「強化子の獲得（注目）」という二つの機能が考えられます。この複数の機能を有するのは、年齢を重ねると多くなっていくそうです。【3月発行第15版に続く】

引用・参考：PECS トレーニングマニュアル第2版

カット：Pics for PECS 第15版（掲載許諾済み）